



◆コロンブスも使用した
航海者必携の書

レギオモンタヌスは、ドイツのケーニヒスベルク出身の天文学者、数学者。ドイツ初の日文台を設立し、一四七二年には巨大彗星を観測した。彼は、自ら一四七四年に『暦』の出版も行っており、本書は、ヴェネツィアで一四八二年に再版したものである。

西洋において、グーテンベルクにより初めて活版印刷術が発明されたのは十五世紀半ばのことであるが、この最初期にあたる同世紀のうちに印刷された書物はとくに「インキュナブラ」と称し珍重されており、本書もその一つである。

印刷者は、表や図版の印刷を得意とし、複数の科学書を印刷したラートドルトで、書名・著者名・印刷者名等が記載されたタイトルページを初めて用いたことでも書物史上知られている。本書は、巻頭の美しい木版二色刷りのインシヤルやアラベスク模様の欄外装飾、本文の日蝕・月蝕の表と図版が特徴となっている。

レギオモンタヌスの『暦』は、太陽や月の運行にもとづく海上での位置（経度）を推測する方法が記されており、天体暦、航海暦の性格が強いもので、大航海時代において航海者必携の書となった。

一四九二年に新世界を発

見したコロンブスもレギオモンタヌスの『暦』を航海に携行していたことで知られており、スペインのセビリアにあるコロンブス図書館には、数種の『暦』が現存している。

コロンブスは、第四回航海においてポルトガルの天文学者アブラハム・ザクートによる『暦』やレギオモンタヌスの『暦』から、一五〇四年の月蝕を予言し、ジャマイカの原住民を怯えさせ、食料の提供を受けるなど服従させる手段に用いたと伝えられる。

掲出の左図下段の黒い円は、その時の月蝕にあたる（天理図書館 福田由紀子）

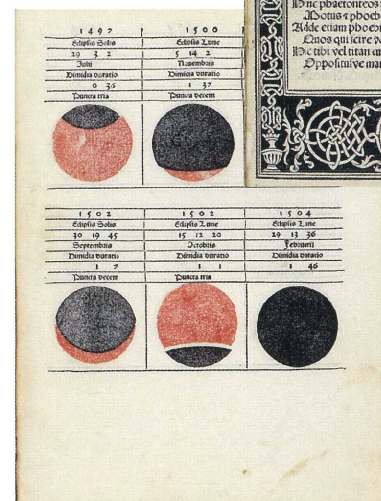
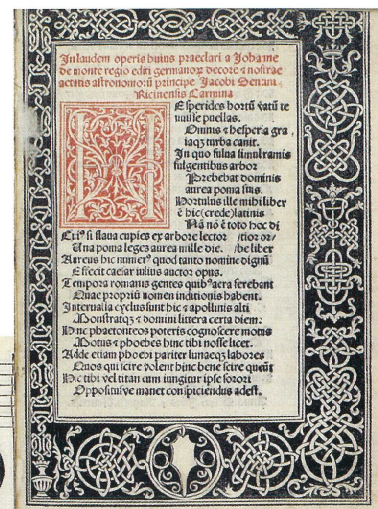
<天理図書館のお知らせ>

Tel 0743-63-9200 URL <https://www.tcl.gr.jp/>

◇平日（午前9時～午後5時半） 土・日・祝（午前9時～午後4時半）

○8月の休館日：6日・11日～17日・20日・27日・31日

○本書は、岡山市立オリエント美術館で9月16日～11月12日開催の「大航海時代へーマルコ・ポーロが開いた世界ー」に出品します。



▶【こよみ】

レギオモンタヌス 1冊

ヴェネツィア 1482年刊

縦20.5cm 横16.0cm



DATA